

宮城県教職員時間外勤務 18%が月80時間超 昨年10月

正規の勤務時間外に月80時間以上在校した県内の教職員は昨年10月、18.2%に上がったことが、県教委の調べで分かった。該当者は前月比の約1.6倍となった。文化祭や新人戦で部活動の時間が増えたことが主な要因とみられる。

県立の中学校、高校、特別支援学校計92校の教職員5708人を対象に調査した。10月に時間外の在校時間が80時間を超えたのは高校（教職員数4131人）が24.6%で4人に1人の割合。200時間を超えた教職員も3人いた。

中学校（同32人）は46.9%。特別支援学校（同1545人）は0.7%だった。

県教委によると、時間外の業務内容は高校の場合、部活動や課外活動が45.5%で最も多く、次いで教材研究・教科指導が19.3%だった。

11月の該当者は高校12.4%、中学校31.3%、特別支援学校0.1%にそれぞれ減った。

時間外の勤務が45時間を超えた月が3カ月連続した教職員の割合は、高校が31.3%、中学校が65.6%、特別支援学校が3.8%だった。

調査は、県教委の健康管理対策実施要領に基づき昨年9月から毎月実施している。